東京都写真美術館年報
2007-2008

TOKYO
METOROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／2007-08

Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2007-08

はじめに

東京都写真美術館では開館以来、写真と映像のセンター的役割を果たすため、多彩な企画を実施してきました。「対話する美術館」をコンセプトに実施した平成19年度事業総括をご紹介します。

2007（平成19）年度当初に開催した「夜明けまえ　知られざる日本写真開拓史Ⅰ関東編」展は、日本全国の美術館、博物館、資料室等が所蔵する幕末から明治期の写真・資料を調査し、体系化しようとする初めての試みです。調査・研究の成果は、「Ⅰ関東編」を皮切りに、今後10年間、隔年で「Ⅱ中部・関西・中国編」「Ⅲ四国・九州編」「Ⅳ北海道・東北編」「総集編」と展覧会に結実させていきます。

また、国内外で活躍の著しい中堅作家を取り上げる新たな展覧会として、「鈴木理策：熊野、雪、桜」を開催しました。国際的にも高い評価を得られている神秘的な作品を独創的な空間で展示し、多くの人々の共感を得ました。

さらに、当館のコレクションのみで構成した「昭和　写真の1945-89」展を4部シリーズで展開しました。折からの昭和レトロブームにも支えられ、時代を回顧する人々とともに、昭和を知らない世代にも大きな反響を呼びました。

戦後の日本を代表する写真家東松照明の「曼陀羅シリーズ」の掉尾を飾るに相応しい「Tokyo曼陀羅」展も注目を浴びました。

映像分野では、現代に活躍する文学作家とメディア・アーティストとのコラボレーションによる「文学の触覚」展は、意表を突く最先端の映像技術を活かした展示で若い世代に評価されました。

美術館で上映する映画シリーズとして定着した「実験劇場」では、自然との共生をテーマとした「地球交響曲第6番」、没後10周年、祈りをテーマとした「マザー・テレサメモリアル」、結成50年目のドキュメンタリー「マグナム・フォト世界を変える写真家たち」等々、芸術性の高いラインナップで大幅な観客増を達成しました。

2008（平成20）年、写真集「胡蝶の夢」（青幻舎）と平成18年度開催の「球体写真二元論　細江英公の世界」が評価され、細江英公氏に第49回毎日芸術賞が授与されました。また、第27回土門拳賞を今年度開催した「土田ヒロミのニッポン」展で土田ヒロミ氏が受賞されました。さらに、日本写真協会年度賞を鈴木理策氏が受賞し、昨年度開催の新進作家展「地球（ほし）の旅人」の前川貴行氏、今年度の新進作家展「スティル/アライヴ」展の屋代敏博氏の両名が同新人賞を受賞しました。

展覧会の成果が認められ作家が表彰されることは、当館にとっても大変に名誉なことであるとともに、写真・映像文化に寄せられる期待の大きさを改めて認識する機会となりました。

今後とも、文化・芸術の蓄積・継承を通じた社会発展への貢献を果たすために、努力を惜しまず積み重ねてまいります。

本書が皆様にとって当館を知るための参考になれば幸いです。

東京都写真美術館

目次

平成19年度事業

東京都写真美術館の基本的性格・・・・・・・・・・・・・5
東京都写真美術館の事業内容・・・・・・・・・・・・・・6
東京都写真美術館の戦略的運営・・・・・・・・・・・・・7
展覧会事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
作品資料収集／作品収集実積・・・・・・・・・・・・・・32
平成19年度収蔵作品の紹介・・・・・・・・・・・・・・35
調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
広報事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
保存科学研究室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
図書室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
実験劇場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
維持会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
ミュージアムショップ／カフェ・・・・・・・・・・・・・57
数字からみた写真美術館・・・・・・・・・・・・・・・・58
条例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
施行規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
開館の経緯／組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
平面図／施設面積／建物概要／設備概要・・・・・・・・・69
利用案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合的専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像分野全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

a　写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。

b　写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。

c　写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。

d　写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。

e　日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。

f　ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。

g　歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

（平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より）

＊なお「映像工夫館」は現在「映像展示室」として「映像展」をはじめ各種展覧会を開催している。